

熊本学（偉人伝）コース

日本文化の価値を発見した文筆家 小泉八雲 ～自然への畏怖と受容の美学～



八雲が大切にした「自然への畏怖」と「受容の美学」は、地球的規模の環境破壊や人種・国・宗教・経済的な格差などによる対立が見られる現代において、再注目されています。本講座では、来熊130年を迎えた八雲の生涯と代表作について学び、異なる文化や価値観への向き合い方など、八雲が大切にしていた精神に迫りました。旧居での現地学習も行いました。

第1回

小泉八雲と熊本 ～生い立ちからその生涯を追って～

小泉八雲熊本旧居
館長 坂本 弘敏 先生

小泉八雲とは、小泉八雲の生い立ち、幼少期の幻視体験、西洋での八雲の足跡、来日の動機とは、熊本に残したもの、八雲の終焉。詳しい資料とともに、八雲が八雲たる所以が浮き彫りとなりました。



第2回

八雲が愛した熊本の生活 ～小泉八雲熊本旧居（現地学習）～

小泉八雲熊本旧居
館長 坂本 弘敏 先生

小泉八雲熊本旧居と敷地概要、旧居の変遷、旧居外回りの見所、展示品とパネル紹介、熊本地震被害復旧状況、八雲の逸話等、特別展示資料を見学。パレアで事前解説の後、旧居に移動し、現地学習を行いました。

第3回

八雲を読む① ～「知られぬ日本の面影」他～

熊本大学
名誉教授 西川 盛雄 先生

ふるさと、家族、学力、財力、視力…いずれも恵まれなかった子供時代の八雲。その記憶、夢、あこがれが名作につながった背景を、八雲の人生のポイントをおさえながら、博識の情報でつまびらかに解説。



▲2度の曳家で、現在の場所に落ち着いた小泉八雲熊本旧居。西南戦争で焼失・再建の際に、横井小楠家の軒瓦も利用されています。



▲小泉八雲熊本旧居での現地学習の様子。絶筆の他、明治の熊本を描いた甲斐青萍の街並図など、貴重な資料4点も特別展示。

第4回

八雲を読む② ～「怪談」他～

熊本大学
名誉教授 西川 盛雄 先生

「夏の日の夢」の解説・朗読に始まり、八雲の最晩年に出版された「怪談」の解説・朗読。八雲が青や南を好んだ理由や、いつ・だれがどこで…を明確に記したのは、日本ではなく西洋に向けて書いたから…といったお話も。



第5回

現代に生かす八雲の精神 ～再評価される受容の美学～

小泉八雲熊本旧居
館長 坂本 弘敏 先生

文化資源として活かす八雲、熊本スピリッツ・その源流、H.スペンサーの影響、八雲の防災と感染症、言語教育への論評・評価、今後の課題など。八雲が今も日本に影響を与え続けていることを学びました。



受講生の感想

- ・受講をきっかけに小泉八雲の作品を読み始めました。
- ・名前を知っている程度でしたが、今回の講座で、実に多岐な分野で成果、実績を残された方だったかを理解できました。
- ・1つのことを深く講義していただくのはとてもいいです。先生方の知識の豊富さにもおどろかされました。とても楽しく学ぶことができました。

